

令和 6 年度 第 4 回 学校運営協議会 議事録（要点記録）

- 1 開催日時 令和 7 年 2 月 1 7 日（月） 1 4 時 2 5 分から 1 6 時 6 分
- 2 開催場所 気田小学校 会議室
- 3 出席委員 森下 薫、山下 太一郎、山下 晃二、福島 亜弥、清水 恭子、森下 裕子
- 4 欠席委員 児玉 和三、岩本 裕美子、正久 幸廣
- 5 オブザーバー 勝又 真希（気田幼稚園園長）
- 6 学 校 堀部 憲一（校長）、野嶋 孝弘（教頭）、田代 萌（CS ディレクター）
- 7 教育委員会 井島 健蔵（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 協議事項

- （1） 議長の選出
- （2） 学校からの報告
- （3） 熟議
- （4） 連絡事項

- 10 会議作成者 田代 萌（CS ディレクター）
- 11 会議記録

司会の野嶋孝弘から、委員の参加者数が既定の数に達しているため、会議が成立する旨の報告があった。

- （1） 議長の選出について

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、山下太一郎委員から森下薫会長を推挙する発言があり、全員意義なくこれを承認した。

- （2） 学校からの報告

野嶋から、資料に基づき説明を行った。主なポイントは以下の通りである。

- ・令和 6 年度のコミュニティ・スクール関連行事報告
- ・令和 6 年度学習支援ボランティアについて
- ・夢育やらまいか事業の予算、執行報告

- （3） 熟議

- ① 学校関係者の評価

野嶋から、「令和 6 年度 学校評価（教職員・保護者・児童）」の資料に基づいて学校評価について説明を行った。結果に対して委員から意見を求めた。

- ・読書について

今年度は体を動かすことに関しては前回より高評価になっていると感じる。運動好き、読書好きがいる中でどちらもというのは、難しいと思う児童がいるのではないかと。アンケートを見る限り、読書習慣に関して低くないのではないかと思います。

（森下委員）

小学生は図書室やぶっくるで本を借りてきていたが、中学生は利用しなくなっている。興味があるものはネットで調べるか本屋で購入している。読書の機会はあるが、興味のある本がないと図書館やぶっくるは活用しないのではないか。(清水委員)

小さいころから親自身も読書に取り組めるようにしてあげたらよかったのではないかと思います。一緒に取り組める読書習慣があったらいいと思いました。

(福島委員)

・いじめについて

「いじめをしたつもりがないが、受け取った側がいじめだと思えばいじめ」という定義がある。「自分はそんなつもりじゃなかったが、相手はつらかったのだということを理解すること、お互いの思いを理解しあって、誤解をとくことが大切である」ということを児童にも保護者にも伝えている。陰湿ないじめは現時点ではないが、今の定義のいじめはどうしても出てきてしまう。それに対してはお互い理解させる対応をしている。(校長)

いじめが今と昔と違うことを感じる。いじめを肯定するわけではないし、丁寧なケアは大切だが、大人になって心が折れやすくなるのではないか。ある程度のプレッシャーも社会に出てからは必要なのではないか。いじめの定義と決めるのはいいが、ある程度やられても自分を奮い立たせるのは大事ではないか。(森下会長)

森下会長と同じ意見で、ある程度のプレッシャーも必要ではないかと思う。今の定義と今までのいじめの境が分かりにくい。今の定義だと教師が介入しすぎではないか。将来が少し心配である。(山下太一郎委員)

いじめた側を指導しても繰り返すことがある。多少のペナルティがあれば、子供なりに理解をする時代もあったが、今の学校教育はできないと思う。いじめられた側の児童はそういう思いをしたんだよと言えた時代もあった。(山下晃二委員)

→そういう時代の下地があったから今があると思う。気田小学校では陰湿ないじめではなく、互いを理解していないがゆえに起こってしまった嫌がらせが起こってしまう。児童には「同じ人間はいないから合う合わないがあると思う。合わない子と常に一緒に居なさいとはいわないが、授業などの一緒にやらなくてはいけないところはしっかり協力してほしい。将来就職して合わない人間がいても、すぐ仕事を辞めることはなかなかできない。それが大人になる一つの勉強だよ。」と教えている。(校長)

いじめの加害者と被害者の間の立場の子供が、悩んでいたら当時の担任が「仲よくしろとは言わないが、朝と帰りの挨拶だけはしてくれる？」と言われた。挨拶をするだけでも被害者には心の支えになるし、悩んでいた子供も救われたのではないかと思います。(福島委員)

「いじめ」といわれると大人も子供も構えてしまうので、いじめ未満は「いじめもどき」ではなく、違うキャッチフレーズがあればいいのではないか。(森下委員)

→来年度の学校運営協議会にて話し合いをしようと思います。(校長)

② 次年度の学校経営方針・教育活動

校長から学校経営方針案の冊子について説明があり、委員に意見を求めた。校長から、「学校経営方針案」の資料に基づいて令和7年度の学校経営方針について説明を行った。

前回運営協議会で話し合い、意見を出し合ったところを汲んでいただいて、去年からまた新たに手を加えて作ってあるのでこの形で進めるのがいいと思いました。

(森下委員)

この意見に全員が賛同し、意義なく承認された。

③ 学校運営協議会の1年間の取り組みについて

・情報発信について

現在、コミスク関連行事を知る機会がコミスクだよりしかない。ほかに地域の人々に伝えられる手段はないか。(森下会長)

保護者として、学年通信、学級通信、コミスクだよりとすべて目を通しているか。

(森下委員)

→自分は委員として極力見るようにしているが、回覧板で回ってきたときに地域の人は全部目を通すだろうか。興味のあるところしか読まない現実があると思う。

(福島委員)

カラーにする、写真を増やす、文字を大きくするなど目を引くようにしたらいいのではないか。(校長)

→なるべく写真は取り入れ、大きくしたり、子供の直筆の感想を入れたりして工夫していきたい。(教頭)

コミスクだよりを半分でもいいので、子供に書いてもらう等して読んでもらうように改善していくといいのではないか。子どもがいない地域が多いので、興味がなくて見ない人が多いのではないか。全地域見てもらえば、「自分のところの写真だ」と興味は持ってもらえると思う。(森下委員)

・学校運営の基本方針について熟議することができたか

校長から提案されてイエスノーではなく、各委員提案して熟議できたと感じました。

(森下委員)

・地域との連携について

自分が役員をやっていたときは今より地域と学校が密になっていたと思う。今年度の持久走の時でもそうだが、「見に行っているのか?」と迷ってしまう。子供が関われば盛り上がる地域の行事などで、地域から学校に何か頼むのも申し訳ないと思う人がいるかもしれない。地域に行事の宣伝をして地域ともっと連携できないか。

(山下晃委員)

→コロナもあって、関係は薄くなっているのかもしれない。地域のほうに子供たちが
出て行って地域に可愛がられる学校も大事。協力できるところは協力したい。勝坂神
楽など学校に来てくれる時に保護者、地域の人に伝えたり、それをきっかけに「勝坂
神楽見に行ってみようかな」と思えたり、伝統を守ることに貢献できるかもしれない。
(校長)

・来年度の目標について

「団体や企業に協力をいただけないか」のところで春野内に誰かいないか。来年度
〇〇講座などで開催できないだろうか。(森下会長)

→教員は3年ほどで異動してしまう。街からきた教員で春野のことをよく知らない
教員も来る。総合、生活科などの授業で故郷春野と絡めてやろうとしたときに教材
を発掘して進めようとする、莫大な時間がかかり、本来やりたいこともやりきれな
くなってしまふ。その時、春野に詳しい人で運営している学校運営協議会から、各学
年に対応した春野に関する授業内容を提案できないか。そうすることで、より春野と
深く関わることができ、新しく来た教員でも、総合的な授業も進めやすくなるのでは
ないか。(校長)

協議の結果、「自分の住んでいる町を好きになり、忘れ去られた四季折々の古き良
き春野の文化や伝統行事等に参加し、伝えていける子に育てたい。」「春野をもっと知
ってもらうため、様々な分野(春野の力)の紹介や、伝えたい文化、人材の掘り起こ
しなどを検討していく。(正月、節分、ひな祭り、端午の節句、勝坂神楽)」を組み合
わせて一つの目標にすることとなった。

(4) 連絡事項

野嶋より、以下について説明があった。

・来年度の予定

第1回	令和7年	4月22日(火)	14:30～
第2回	令和7年	10月28日(火)	14:30～
第3回	令和7年	12月16日(火)	14:30～
第4回	令和7年	2月27日(金)	14:30～

・次年度の学校運営協議会の組織について